

盛岡青松支援学校

研究テーマ

「多様化する児童生徒の学びを支える指導・支援の在り方を探る」

視点①多様化する児童生徒のニーズ

視点②学びを支える指導・支援の明確化

(2年次研究1年目)

1 全体研究

(1) 研究テーマ設定の理由

昨年度末全職員に対して本校の研究に関するアンケートを実施し5つに課題を絞り、その課題について小中高の縦割りでグループ編成した。多様化する児童生徒のニーズを把握しつつ、一人一人の学びを支えるために必要なことを明確にした上で指導・支援を行うことで児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるようになるであろうと仮説を立て事例研究に取り組むこととした。

(2) 各グループについて

①「わかる授業作り」グループ

多様化する児童生徒の学びを支える授業の在り方と主体的に授業に参加するための授業の方策を探ることを目的とする。一人一実践でグループ全員が略案を作成し、校内での参観授業、ミニ授業研究会を行い、授業作りで工夫した点について検討会を実施する。

②「自立活動」グループ

個別の指導計画に基づいた自立活動の指導の充実を目指し、対象児を絞って指導検討会を実施している。指導検討会が活発で深い協議となるよう、グループで作成した指導検討会シートⅠ及びⅡを活用している。また、指導検討会の助言者として、副校長に参加していただいている。

③「学校生活」グループ

社会で求められる規範意識の大枠を各学部の子生活年齢や発達段階に応じて考え、現在ある学校生活のルールや、指導方法について検討・実践し、修正しながら実態にあった内容や指導方法について整理する。

④「自己実現・進路実現」グループ

本校の児童生徒の実態に応じた教育的ニーズをもとに、児童生徒の自己理解につながる指導・支援方法について探る。また、自己実現・進路実現

を土台とした各学部におけるキャリア教育の具体的な取組内容について整理し、一貫したキャリア教育を行うために必要な内容について研究する。

⑤「居場所作り」グループ

授業や集団参加に拒否感や抵抗感を持つ対象児を各学部1名抽出し、指導実践を行い、グループ内で作成した「指導実践シート」を活用して継続的に報告・検討会を行っている。年度末には実践事例や手立てを整理し、今後の他児への指導に役立てていく。

(3) グループ研究会

年間8回を基本にしなが、各グループの推進状況により、回数を調整しながら実施した。

(4) 全体研究会

5グループそれぞれが研究した内容について、全体の場で共有する。所属していないグループの研究内容についても研修し、今後の指導・支援に活かす。

2 講演会

演題：「家族療法による見立てと支援」

講師：岩手大学教授 奥野 雅子 氏

期日：令和3年1月7日(木)

参加者：49名(本校職員)

3 研修会

今年度は全体での研修会を2回実施した

第1回

演題：「教育機関としての本校の役割と医療機関との連携について」

講師：社会医療法人智徳会未来の風せいわ病院
理事長 智田 文徳 氏

期日：令和2年11月4日(水)

対談記録をDVDに録画して実施。

第2回

演題：「チーム支援を考える～外部機関連携の進め方と実際～」

講師：岩手県立大学准教授 櫻 幸恵 氏

期日：令和3年1月14日(木)

参加者：46名(本校職員)